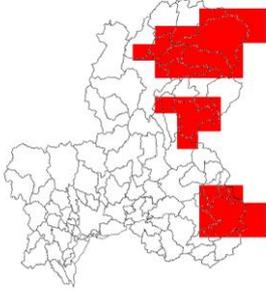


ニイタカスゲ	<i>Carex leucochlora</i> Bunge var. <i>aphanandra</i> (Franch. et Sav.) T.Koyama	準絶滅危惧
		カヤツリグサ科
選定理由	分布域の一部で生育条件が悪化しているため。	写真(清水英彦) 標本
形態の特徴	叢生し、基部は褐色。高さは約15cm以下、花茎は弓なりに曲がる。雄小穂は細く短く、雌小穂は1-2個、最下の雌小穂は必ず根際に生じる。雄鱗片は鋭頭、雌鱗片は長芒端～短芒端。果胞は有毛。類似種のイトアオスゲよりも葉は硬い。類似種のハガクレスゲは果胞が細く、形状が異なる。小型のメアオスゲに似るが、分布域がメアオスゲと重ならない。花期は6-7月。	
生態的特徴	ブナ帯～シラビソ帯の林床や草地に生育する多年草。	
分布状況	本州・四国・九州の太平洋側に分布し、岐阜県では県北と県南東部に分布する。	
減少要因	開発に伴う草地の消失、山林伐採。	
保全対策	山林や草地の保全。	
特記事項		
参考文献	勝山輝男. 2005. 「ネイチャーガイド 日本のスゲ」. 文一総合出版, 東京. 星野卓二・正木智美・西本真理子. 2011. 「日本カヤツリグサ科植物図譜」. 平凡社, 東京.	

文責: 清水英彦